

災害から地域を守る女性たち

宗片 恵美子

東日本大震災の発生から7年が過ぎた。毎年「3.11」が来るたび、「被災者一人ひとりの真の復興は果たされているか」を問い直す。ほど遠い現実には胸が痛むことも少なくない。

私が代表理事を務めるイコールネット仙台が実施した「東日本大震災に伴う『震災と女性』に関する調査(2011年)」では、震災時、「家族」「仕事」「健康」等、女性たちがさまざまな分野で困難を抱えた実態が明らかとなった。そして、これらの困難を繰り返さないために、防災・復興にかかわる意思決定の場に女性の参画が重要であることも強く求めている。

そこで、当団体では、2013年から女性防災リーダーの養成に取り組んだ。女性たちが地域防災の担い手としてリーダーシップを発揮していく必要がある。震災以降、「地域の防災力」は重要なキーワードとなった。しかし、全国の自治会長に占める女性の割合はわずか5.4%(2017年度)。特に、防災や災害の領域で、女性たちが力を発揮することは容易ではない。そうした中、住民を巻き込んだ女性防災リーダーの取り組みが徐々に支持を広げている。活動の場を自ら獲得していこうとするその姿勢に感動さえ覚える。こうした動きを支えているのがネットワークだ。今、全国各地で、防災・減災に取り組む女性たちの動きが活発になっており、地域を超え、さまざまなつながりが生まれている。こうしたつながりを力に、女性たちが、実績を積み、地域に必要な存在へと成長しつつある今こそ、男女共同参画の実現が期待できる。

しかし一方で、女性たちがリーダーとして力を発揮できる仕組みや環境づくりが進まなければ、現状は変わらない。震災を通して改めて問われた男女共同参画の課題は、災害が発生するたびに指摘されてきたことであり、被災地の女性たちには、その解決に向け、自らの体験と教訓を伝え続けてほしい。



PROFILE

むなかたえみこ：NPO 法人イコールネット仙台代表理事。2003年男女共同参画の推進をめざすイコールネット仙台の設立にかかわる。2008年「災害時における女性のニーズ調査」実施。東日本大震災発生以降、被災女性に対する支援活動や調査活動に取り組み、女性防災リーダー養成に力を入れている。2011年6月「女性のチャレンジ賞」(内閣府)受賞。内閣府男女共同参画会議議員等を経て、現在仙台市防災会議委員等を務める。